



2025年 3月期 通期決算説明会資料

2025年5月29日
TSEコード:2612



ひらけ、ごまの可能性。

ごまの価値を極限まで高めることで、小豆島から、世界に貢献していく。



1

2025年3月期決算・2026年3月期業績見通し

執行役員 経営企画部長 佐藤 幹央



2

新体制による取組方針

代表取締役社長 北川 淳一



1

2025年3月期決算・2026年3月期業績見通し

執行役員 経営企画部長 佐藤 幹央



2

新体制による取組方針

代表取締役社長 北川 淳一

2025年3月期 決算概要

- 原料コスト増と円安により国内市場での収益が圧迫される中でも、中長期的な企業価値向上に向けて、マーケティング投資は予定通り実施。
- 米国市場での販売拡大で国内市場における収益圧迫を補い、営業利益率は昨年対比0.7%減に留めた。

		2024年3月期	2025年3月期		(参考)2024年5月発表予想比		
(百万円)		通期実績	通期実績	前年比		通期予想	予想比
連 結	売上高	35,680	39,450	+3,769	+10.5%	38,500	+950
	販管費	6,664	6,980	+315	+4.7%	—	—
	営業利益	3,117	3,166	+49	+1.5%	2,500	+666
	営業利益率	8.7%	8.0%	—	▲0.7%	—	—
	経常利益	3,409	3,394	▲14	▲0.4%	2,600	+794
	経常利益率	9.6%	8.6%	—	▲1.0%	—	—
	当期純利益	2,255	2,357	101	4.4%	2,000	+357
	当期純利益率	6.3%	6.0%	—	▲0.3%	—	—

セグメント別概況 1/2 ごま油事業の概況

- ・ 全セグメントにおいて売上単価／数量は前年を上回った。 特に海外売上高は86億円と過去最高を記録。
- ・ 営業利益率は国内市場における収益圧迫により前年対比0.8%低下。

		2024年3月期		2025年3月期				2024年3月期		2025年3月期					
		通期実績		通期実績		前年比				売上単価		売上単価		前年比	
(金額は百万円、数量はトン、単価は円/KG)															
国内	家庭用	売上高	10,075	10,873	+ 798	+ 7.9%					1,170	1,232	+61	+5.2%	
		数量	8,608	8,829	+ 220	+ 2.6%									
	業務用	売上高	9,043	10,304	+ 1,261	+ 14.0%					735	827	+92	+12.5%	
		数量	12,303	12,461	+ 158	+ 1.3%									
海外	輸出用	売上高	7,110	8,638	+ 1,528	+ 21.5%					1,097	1,248	+151	+13.8%	
		数量	6,481	6,921	+ 439	+ 6.8%									
合計	ごま油合計	売上高	26,228	29,816	+ 3,587	+13.7%									
		数量	27,394	28,212	+818	+3.0%									

		2024年3月期		2025年3月期	
		通期	通期	前年比	前年比
(百万円)					
合計	営業利益	2,785	2,874	+89	+3.2%
	営業利益率	10.1%	9.3%	—	▲0.8%

セグメント別概況 2/2 食品ごま事業の概況

- ・コスト増を踏まえた製品価格の適正化に務めた結果、販売数量は▲2.4%減少したが、売上高は増加、営業利益率は同▲0.4%の減少に留めた。

(トン/百万円)	2024年3月期		2025年3月期		前年比			
	数量	売上高	数量	売上高	数量	数量	売上高	売上高
連結	11,940	7,896	11,648	8,269	▲291	▲2.4%	+372	+4.7%

(円/KG)	2024年3月期		2025年3月期		前年比	
	売上単価		売上単価		売上単価	
連結	661		710		49	7.35%

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期		前年比	
	通期		通期		通期	
連結	営業利益	260	営業利益	237	▲22	▲8.8%
	営業利益率	3.3%	営業利益率	2.9%	—	▲0.4%

2026年3月期 通期業績見通し

- ・引き続き国内市場での収益圧迫傾向が見込まれることに加え、米国向け販売はトランプ関税により不透明な環境ではあるが、低採算取引の見直し等の施策実行により前年並みの利益を確保する。
- ・中長期的な企業価値の向上に向け、マーケティング投資強化を継続する(販管費は昨年対比1割増とする)。

		2025年3月期	2026年3月期	
(百万円)		通期実績	通期見通し	前年度比
連 結	売上高	39,450	40,000	+550 +1.4%
	販管費	6,980	7,700	+720 +10.3%
	営業利益	3,166	3,100	▲66 ▲2.1%
	営業利益率	8.0%	7.8%	— ▲0.2%
	経常利益	3,394	3,200	▲194 ▲5.7%
	経常利益率	8.6%	8.0%	— ▲0.6%
	当期純利益	2,357	2,150	▲207 ▲8.8%
	当期純利益率	6.0%	5.4%	— ▲0.6%

※為替レートは145円/US\$の前提



1

2025年3月期決算・2026年3月期業績見通し

執行役員 経営企画部長 佐藤 幹央



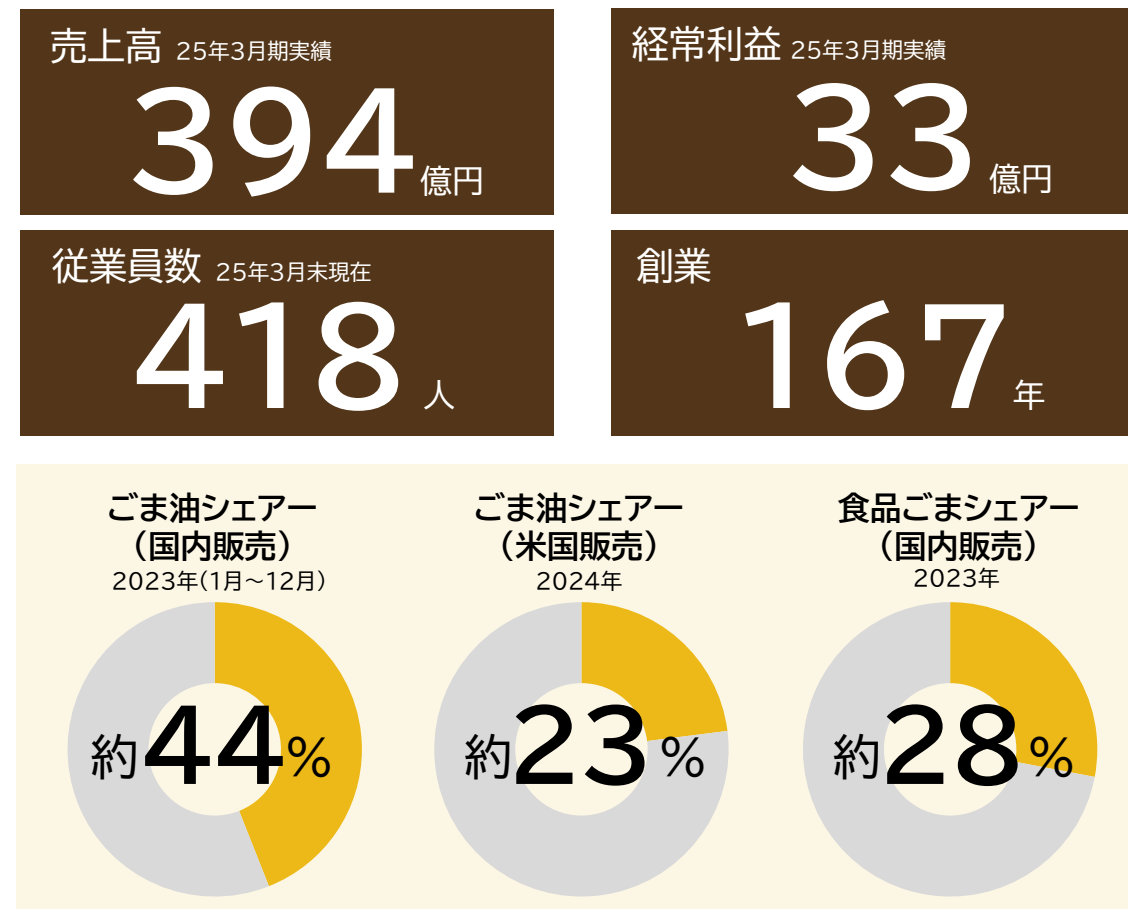
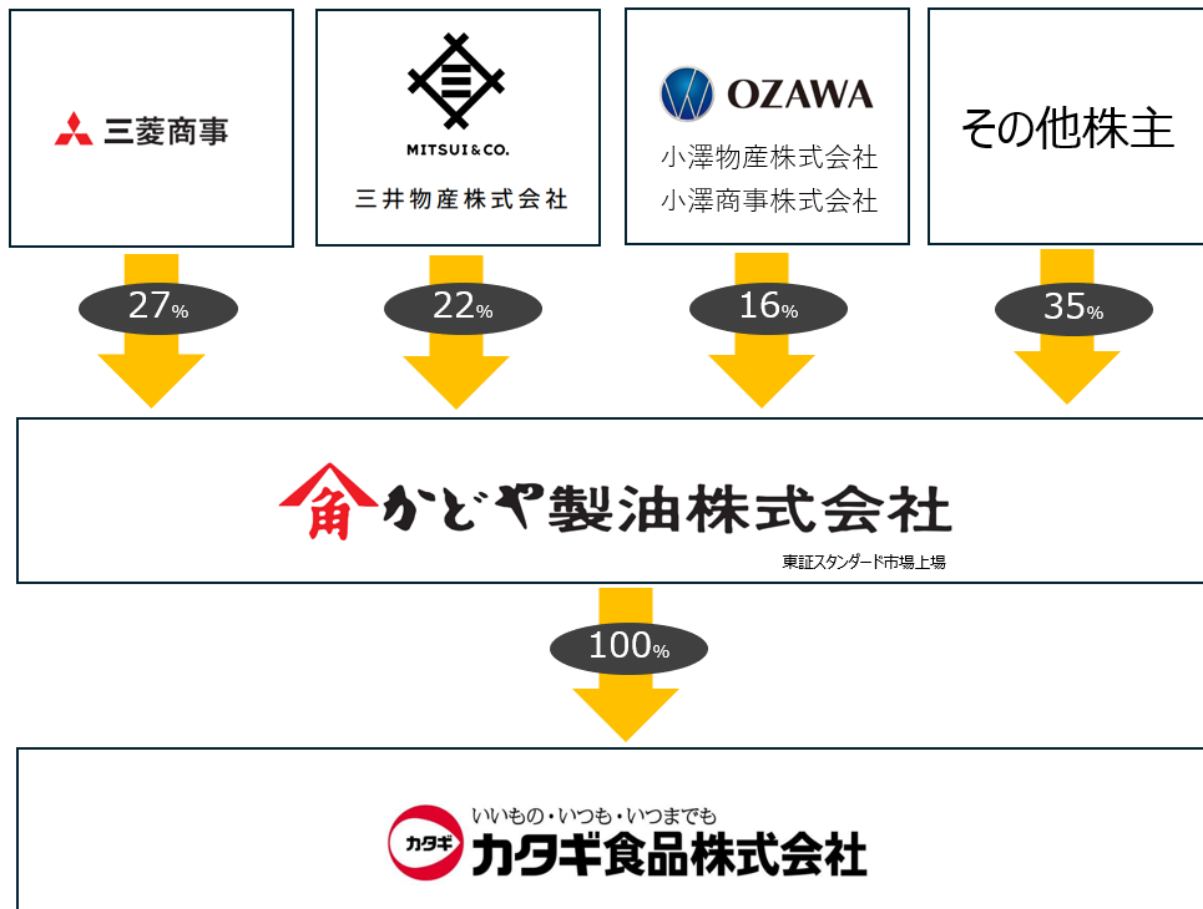
2

新体制による取組方針

代表取締役社長 北川 淳一

当社概要

安政5年(1858年)より一貫して小豆島でごま油を製造。ごま油市場において、日本のみならず米国でもシェアNo.1。



出所:富士経済
「2025年 食品マーケティング
便覧No.4」ごま油販売額

出所:Global Trade Atlasより
当社試算

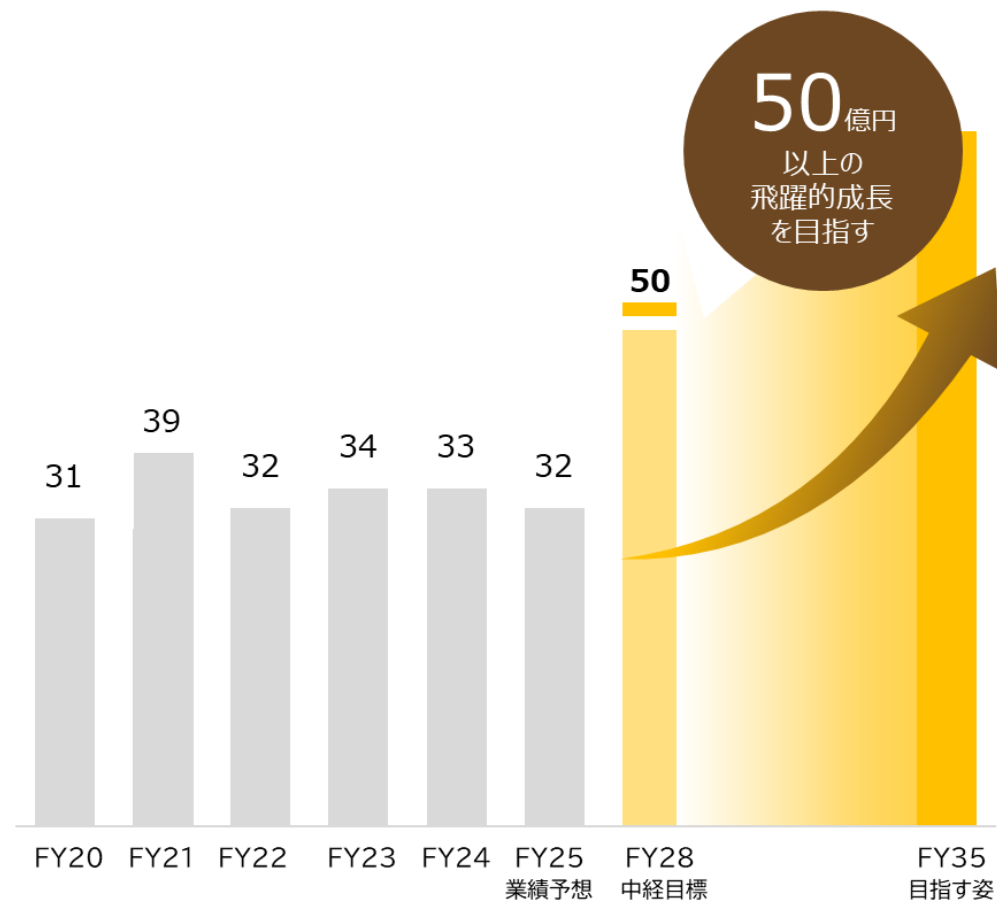
当社調べ

醤油が世界に広がったように、「ごま」の持つ価値を極限まで高め、美味しさと健康を届ける。
「KADOYAごま油」が世界中の食卓で並んでいる未来を創造する。

ごまの価値を極限まで高める



中期経営計画を通過点として成長を実現させる



- ・当社が手がける「ごま油」は、健康と美味しさを兼ね備えた、世界に誇れる調味料。
 まるで「醤油」のように、世界中の食卓に欠かせない存在になる可能性を秘める。
- ・これまで食用ではなかった「脱脂ごま(搾りかす)」も、栄養価の高い新たな食品素材となり得る。

当社の取組に対して世界中の人々に共感していただき、ファンになっていただきたい

- ・日本で唯一、ごま油の製造で抽出工程を使いこなせる高い技術力
- ・167年間の歴史に裏打ちされた、信頼とブランド力
- ・高品質なタンパク質の供給力
- ・日米両市場における「KADOYAファン」の存在
- ・大株主のリソースを有効活用できる可能性

強み
 (模倣困難な要素)

S

W

- ・過去の成功にとらわれない、変化に挑む力の必要性
- ・低採算取引の見直しなどに対する対応力の強化
- ・ごまの価値を伝えるための更なる発信力の必要性

弱み
 (変革への一歩)

機会
 (広がるチャンス)

O

T

脅威
 (乗り越えるべき課題)

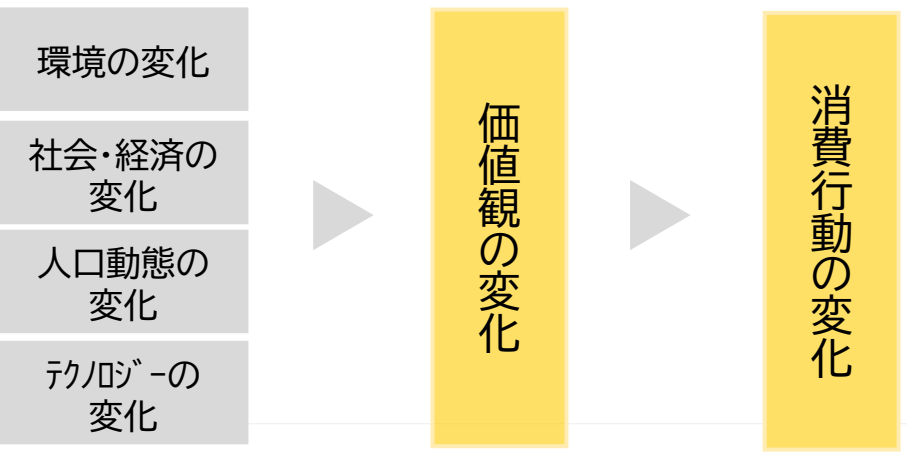
国内: かける調味料として人気が高まる
 米国: 人口増加／日本・韓国の食文化の浸透
 共通: 植物たんぱく需要の増加／
 サステナビリティ意識の高まり／AIの進化

国内: 少子高齢化／競合商品(調合ごま油)の台頭
 米国: トランプ関税の影響による消費減退の可能性
 共通: ・地政学リスクの高まりによる原料の安定調達
 ・世界的に情報過多の時代となり「伝える」ことの難しさが増大

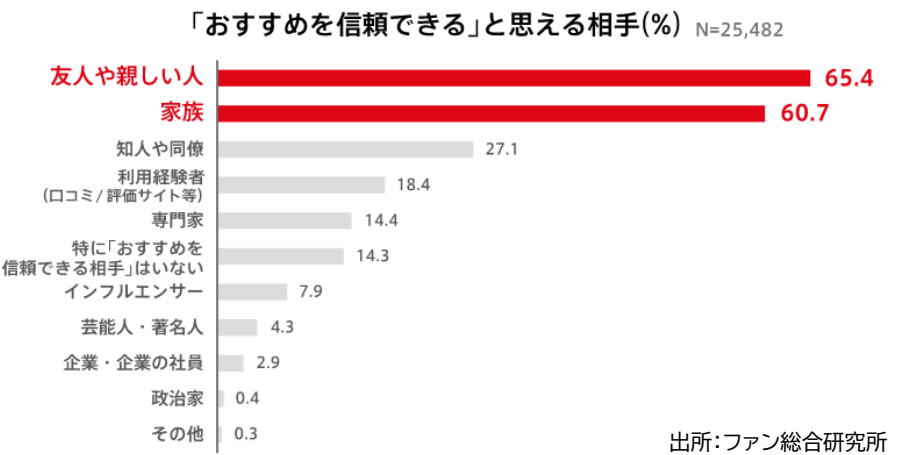
環境認識を踏まえた取組方針 ～ファンベース経営の実践～

当社が大切にしている価値を支持してくれる人(＝ファン)を社内外で増やし、ファンを基盤にして企業価値を高める経営(＝ファンベース経営)を実践する。

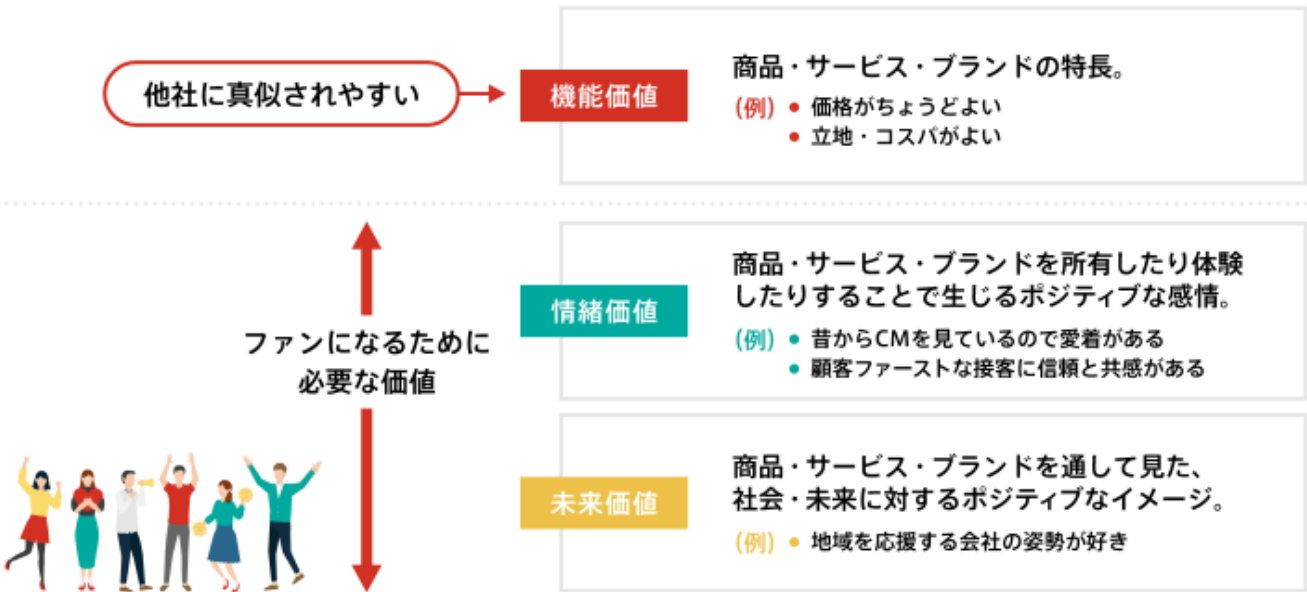
環境変化の要因



推奨度の信頼性



ファンにとっての特別な存在を目指す



出所：ファンベースカンパニー



ファンベースの前提となる「当社が大切にしている価値」をパーパス・ビジョン・バリューとして整理

全社員対象のアンケートや社員各階層が参加するワークショップでの「当社が捨てるべきもの・守るべきもの・加えるべきもの」等に関する議論を経て、2025年4月にパーパス・ビジョン・バリューを制定。



Values (大切にしている価値観)

ご：ごまのバイオニア
 ま：まずは、お客様第一主義
 せ：誠実、公平、偽りなく行動
 さ：差別なく、異なる考え方、文化、社会に敬意
 み：自ら望む、常に変化を生む

Vision (ありたい姿)

「ごま」を通じて社会課題の解決に取り組み、社員と会社の両方が持続的に成長する。



Purpose (存在意義)

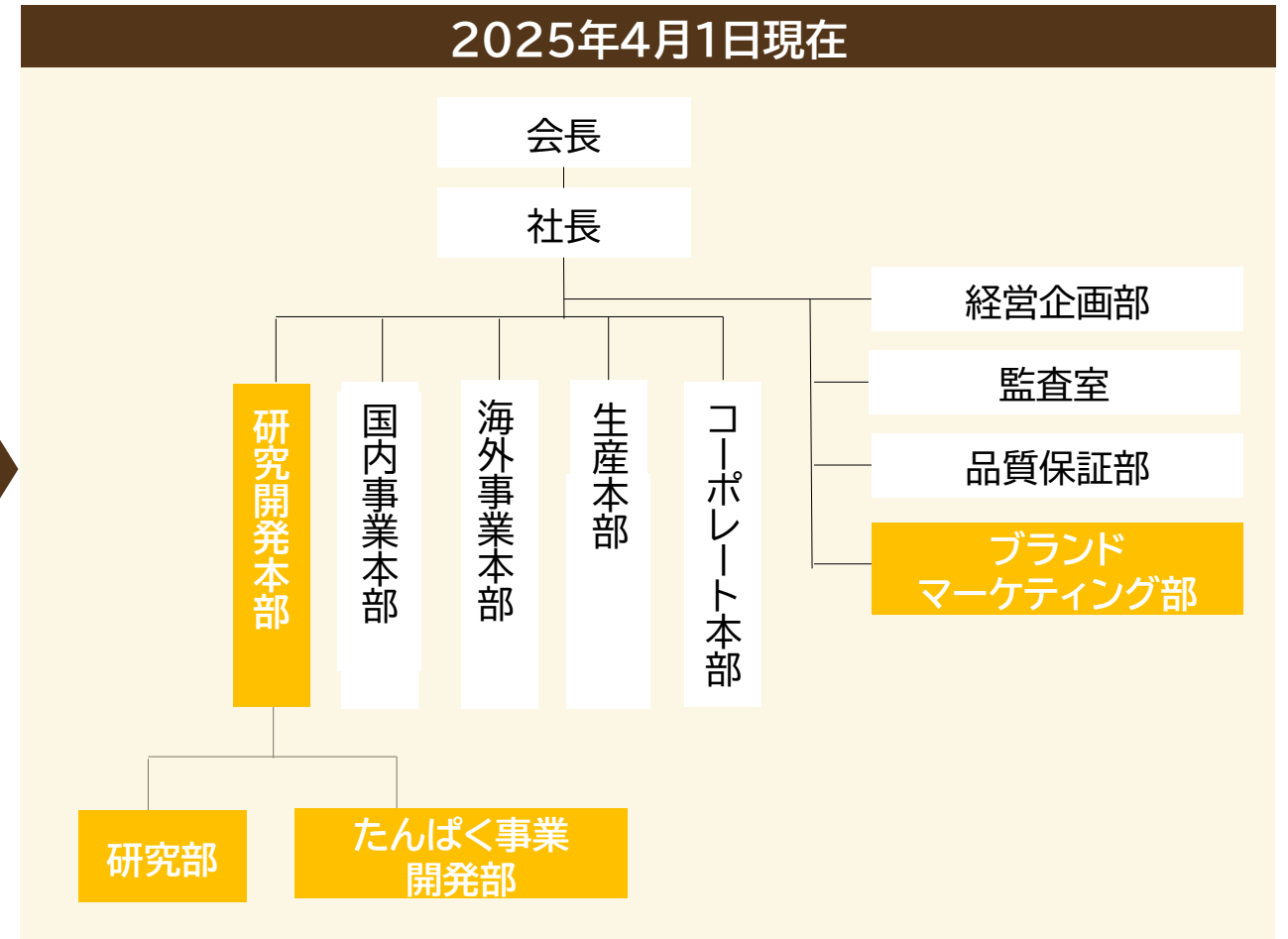
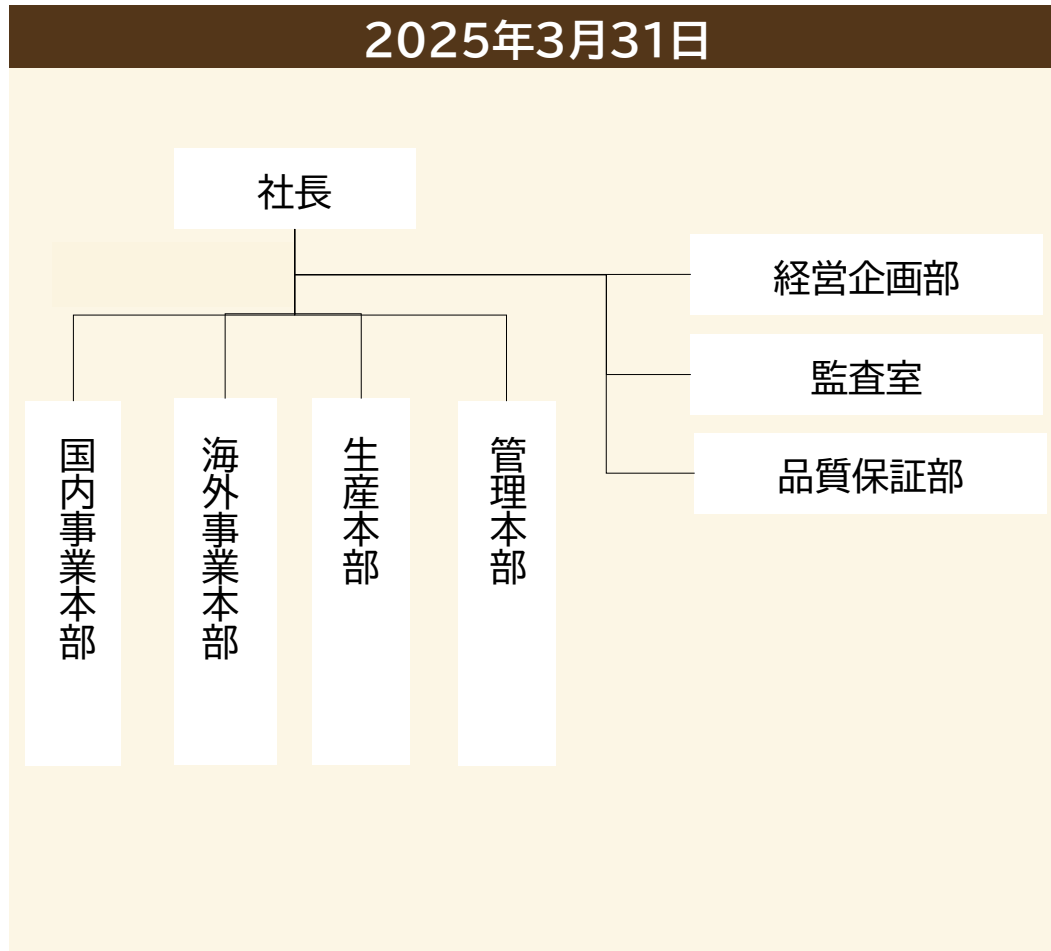
ごまの価値を極限まで高めることで世界に貢献する。

社内ワークショップの様子



組織体制の見直し(2025年4月1日付)

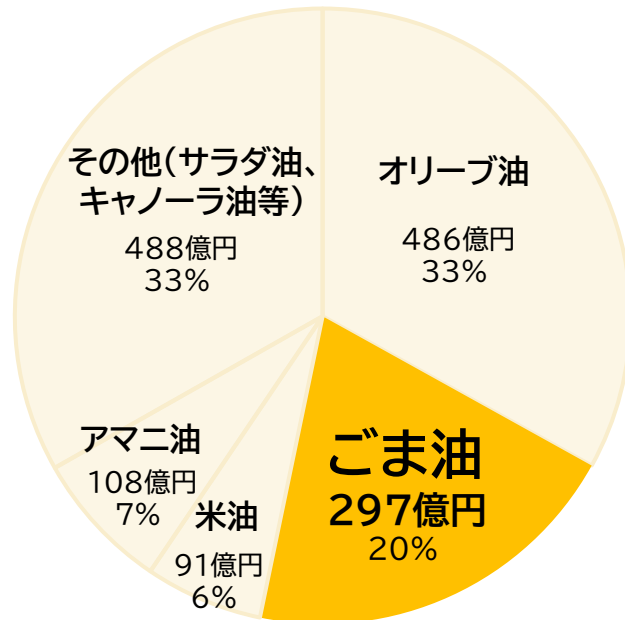
- ・ファンベース経営の推進を担う「ブランドマーケティング部」を社長直轄組織として新設。
- ・“ごまの価値を極限まで高める”べく「研究開発本部」を新設。
- ・米国市場の成長取り込み加速に向けて、本年度中を目途に米国かどや製油(仮称)設立を検討中。



ごま油の新たな需要創造にむけた施策

- ・ごま油は家庭用食用油カテゴリーにおいて、オリーブ油と同様、調味料としての用途が定着しつつある。
- ・「味変」ニーズを掘り起こすべく、飲食店の卓上への設置を働きかけると共に、洋食にも合う風味の新たなごま油の開発にも取り組む。

家庭用食用油の販売額構成・比率（2024年見込み）



出所:富士経済, 2025年 食品マーケティング便覧 No.4

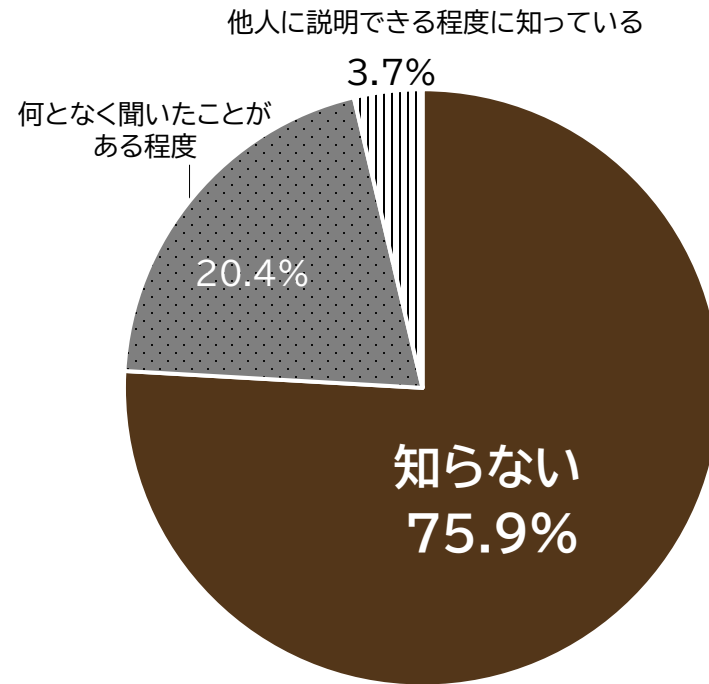


ごまら一油／ごま油＆塩で、洋食や唐揚げ等をお楽しみ頂く機会なども提案

国内市場における価値伝達の取組

- ・ 家庭用調合ごま油を「ごま油100%」と誤解している消費者が75%にも達する(当社調べ)。
- ・ ごま油100%であることが、大切な価値である「おいしさ」の理由であることをしっかりとお伝えし、ファンの皆様のご理解を深めていく活動にも注力する。

75%の消費者が純正と調合の違いを知らない



出所: 自社調べ 2024年3月消費者調査(n=65,653)

純正ごま油 一般的な調合ごま油



ごま油
100%



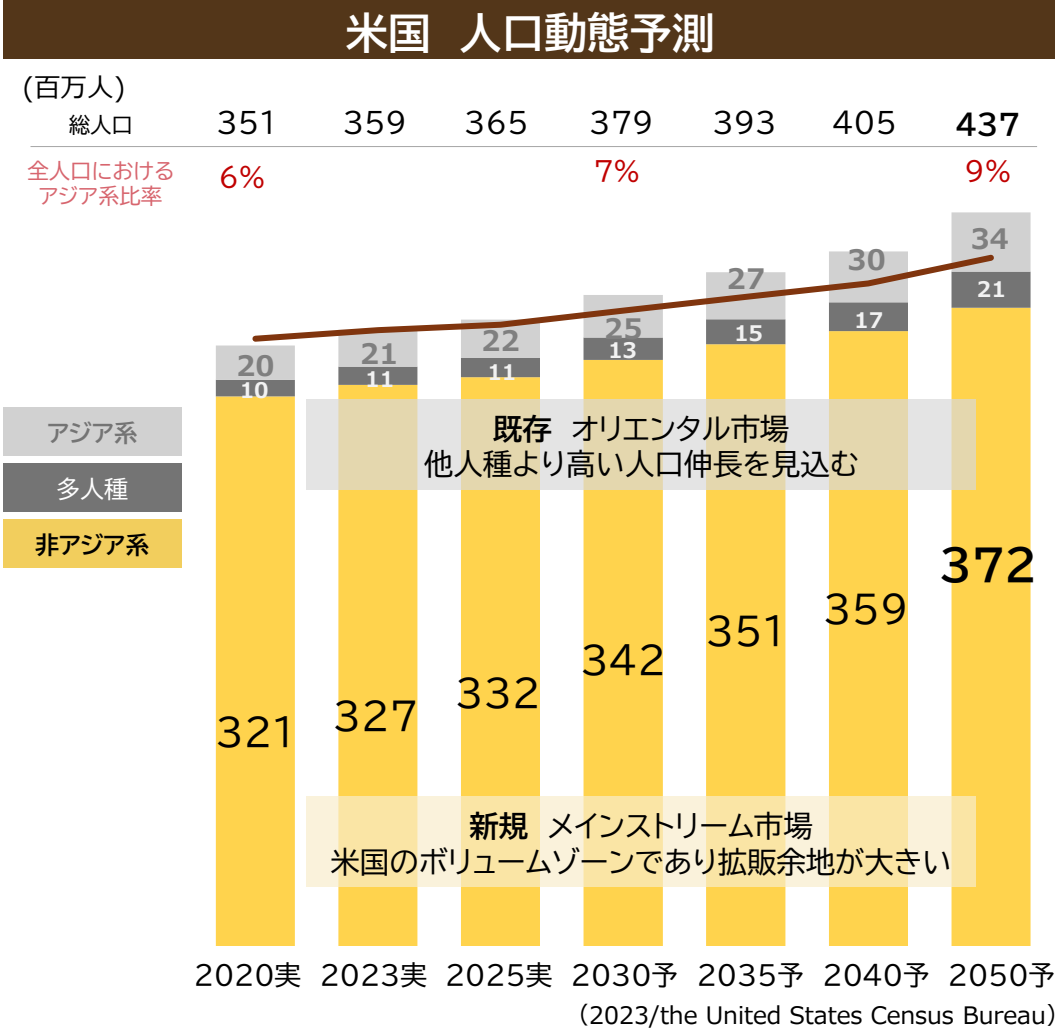
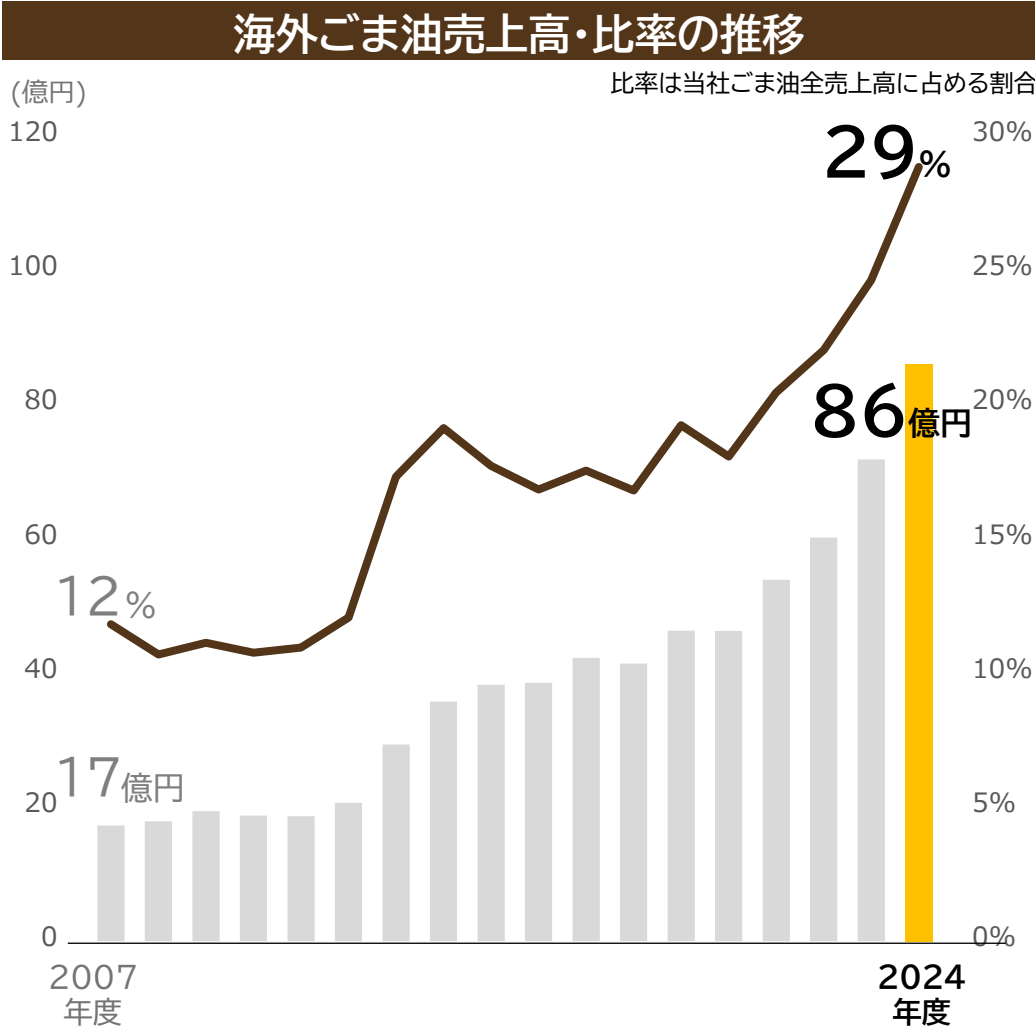
ごま油 60% 菜種油 40%

純正ごま油のおいしさを伝える動画



米国市場における更なる成長の取り込み

- ・ 米国市場では、アジア系人口の増加とアジア食の広がりを背景に、ごま油の需要が着実に拡大。
- ・ 現在主戦場としているオリエンタル市場(2,000万人)に加え、メインストリーム市場(3億人超)も開拓。

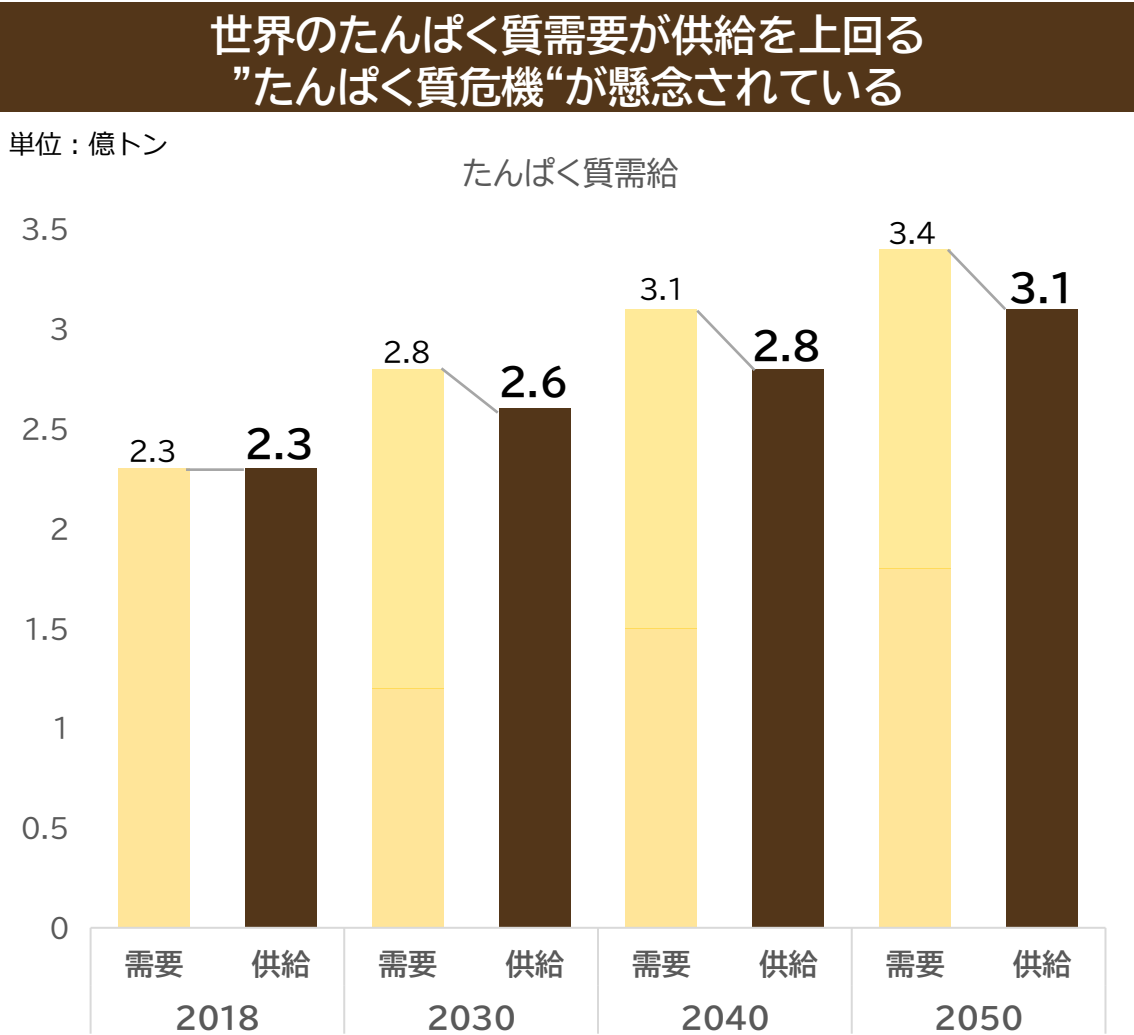


脱脂ごま(搾りかす)の食品利用に向けた取組

- ・ 100%非遺伝子組換の脱脂ごまには、良質なたんぱく質が約4割含まれる。また、強い抗酸化作用を持つセサミノール配糖体や、焙煎ごま香味も有しており、食品に利活用できる高い潜在力を有する。

2025年3月
脱脂ごまを利用したグラノーラをオリゼ社と共同で上市





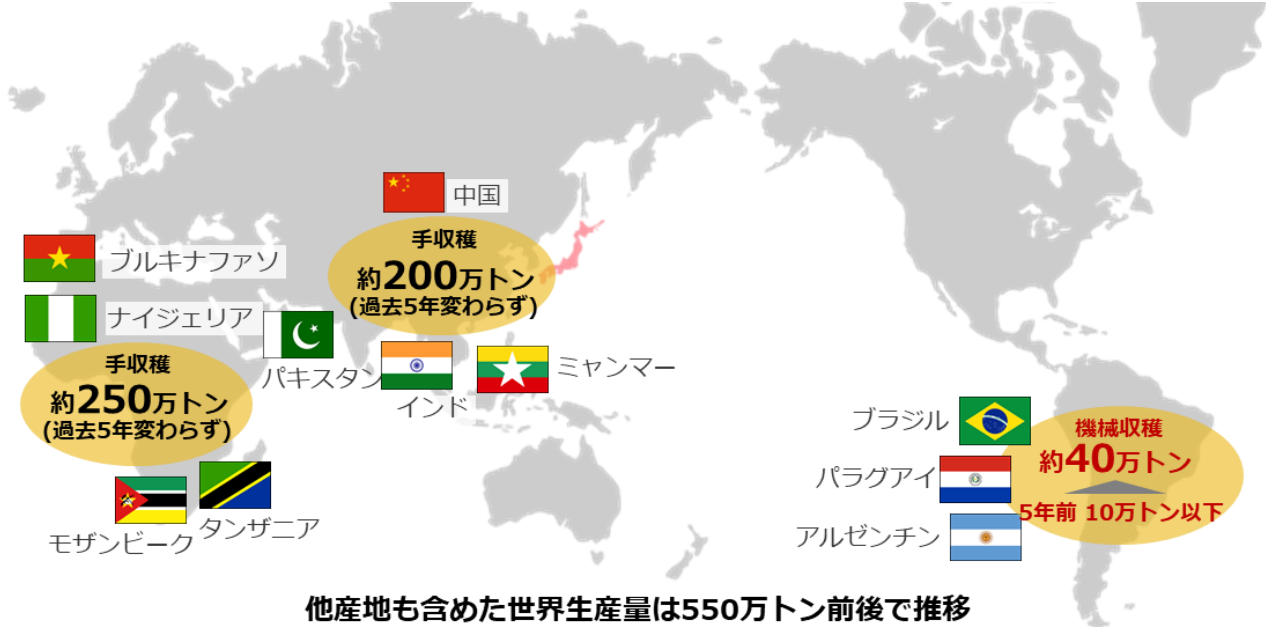
出所：ニュースイッチ. (2024年05月02日). 三井物産・双日・兼松…商社がたんぱく質確保に走る理由. <https://newswitch.jp/p/41410>

地政学リスクに強い持続可能な原料調達戦略

- ・ ブラジル等の南米において、大規模農家による機械収穫ごま品種を利用した生産が拡大中。
- ・ 南米からの安定調達スキームを構築し、相対的に地政学リスクが高いアフリカへの依存度低減を図る。

世界の主要地域におけるごま生産量

数量は2024年クロープ、国名は主要産



他産地も含めた世界生産量は550万トン前後で推移

(Oil World他から当社試算)

アフリカ等での伝統的なごま栽培(手収穫)

播種

収穫

脱穀

保管



南米での大規模生産によるごま栽培(機械収穫)

播種

収穫

脱穀

保管



社会課題解決に向けた取り組み：JTB 20年先の小豆島をつくるプロジェクトへの参画

- ・小豆島は1950年代から始まった人口減少が止まらず、地域の持続可能性に懸念がある。
- ・“日本の縮図”ともいえる社会課題を抱える小豆島における最大企業として、「JTB 20年先の小豆島をつくるプロジェクト」に参画し、観光・教育・環境の各分野で課題解決に取り組んでいく。

観 光

小豆島工場にある歴史資料館「今昔館」の移設およびリニューアルの検討を進め、観光としての立ち寄り場所の1つとなることを目指す。

国内外からの観光誘致場所となり得る、レストランやお土産の販売、体験型の工場見学の併設等の可能性も含め、観光事業での連携を検討。



教 育

将来を担う小豆島の子どもたちの未来へ、健やかな笑顔のきっかけづくりとして、かどやの食育活動「ごまんぞく給食」を実施。ごまを通じて、食の大切さを学ぶ機会を提供。



環 境

ごまでつながる持続可能な島を目指した地域創生プロジェクト「ごまのみらい小豆島プロジェクト」を立ち上げ、行政・地域との連携によりごまを栽培し、収穫したごまを使用した商品化を計画。持続可能な地産地消を目指す。



社会課題解決に向けた取り組み： ごま生産地における農家支援

- ・ 2021年より、現地サプライヤーと共に、現地農家の生産性と生活の質を高める営農指導に注力している。
- ・ 収穫量と品質の向上を支援することで当社にとっての安定調達の実現に加えて、農家の自立を促し持続可能なサプライチェーンを強靱化している。



ナイジェリア

独学で学んでいたごま農家へ農業技師を派遣。約2000haの圃場で実施し、単位あたりの収穫を改善。



タンザニア

農業技師が2,000戸の農家を訪問し、栽培マニュアル配布などを実施。2年目以降も連続して参加する農家も多い。



パラグアイ

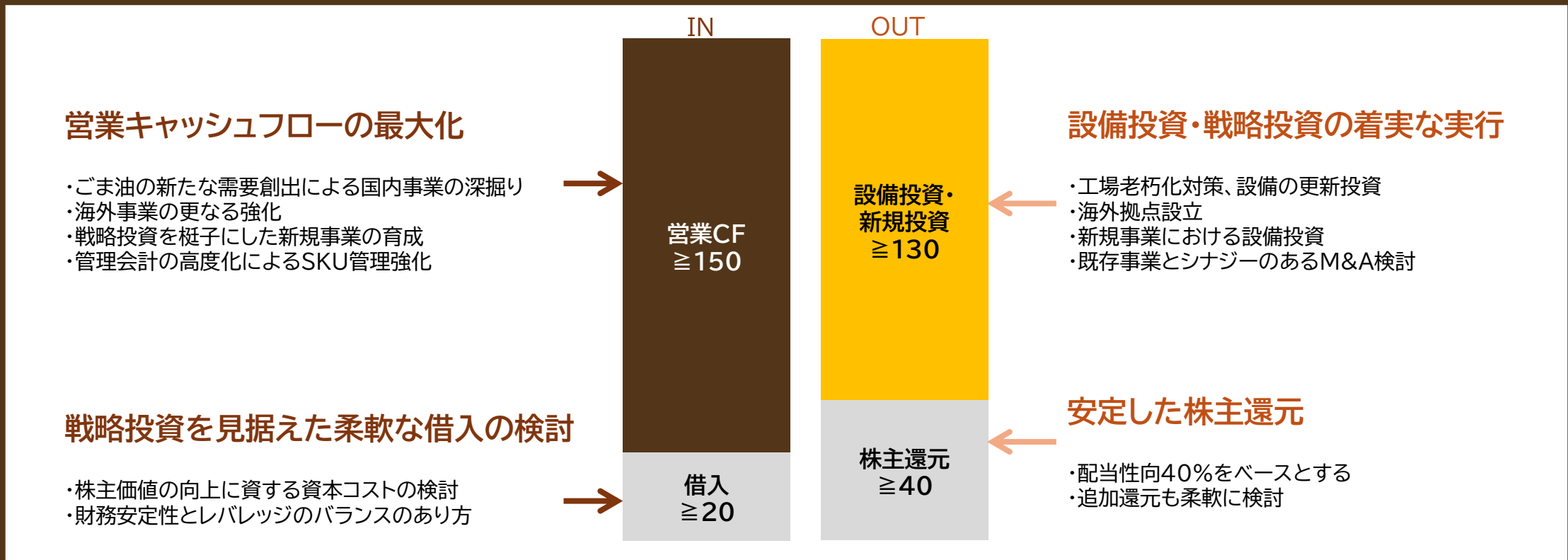
生活水準の引き上げのため、政府がごま栽培を推奨しており、現地サプライヤーと共に技術指導を実施。



財務政策の考え方

- ・ 小豆島／袖ヶ浦／寝屋川(カタギ食品)の国内3工場における老朽化対策や低採算取引の見直しに加え、将来的な米州での生産なども見据え、生産体制の在り方を検討の上、戦略投資を実行。
- ・ 配当性向40%を基準とし、安定した株主還元を実行(投資進捗や資本コストを踏まえた追加還元も検討)。
- ・ 成長の実現に向けて、財務安定性を棄損しない範囲での有利子負債活用も検討。
- ・ 戦略投資により稼ぐ力を底上げし、営業キャッシュフローを最大化。

2024～28年度累計キャッシュフローのイメージ (単位:億円)





補足資料

当社グループ生産拠点と生産量

24年度生産量(単位:トン)



香川
小豆島工場 ごま油 23千トン 食品ごま 8千トン



千葉
袖ヶ浦工場 ごま油 6千トン



大阪
寝屋川工場(カタギ食品)食品ごま 4千トン

過去5年分の要約財務諸表

(百万円)		21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期	25年3月期	26年3月期予想
連 結 P L	売上高	31,371	32,185	33,690	35,680	39,450	40,000
	売上総利益	9,147	10,163	9,712	9,781	10,146	10,800
	売上高総利益率	29.1%	31.5%	28.8%	27.4%	25.7 %	27.0%
	営業利益	3,021	3,450	2,914	3,117	3,166	3,100
	売上高営業利益率	9.6%	10.7%	8.6%	8.7%	8.0%	7.8%
	経常利益	3,135	3,968	3,229	3,409	3,394	3,200
	売上高経常利益率	10.0	12.3	9.6	9.6	8.6	8.0
	親会社株主に帰属する当期純利益	2,101	2,769	2,219	2,255	2,357	2,150
	EPS	228.43	301.00	241.19	245.13	256.12	233.61
	1株当たりの配当(円/株)	85	110	100	100	100	95
	ROE	7.4%	9.2%	6.9%	6.7%	6.8%	6.0%※
※連結BS予算未作成のため、かどや単体の参考値							
連 結 B S	流動資産	19,789	23,705	26,091	28,206	30,369	—
	現金及び預金	2,861	6,148	6,886	8,696	7,881	—
	固定資産	13,510	12,760	12,006	10,992	13,167	—
	無形固定資産	396	348	229	141	73	—
	投資その他の資産合計	2,616	2,546	3,163	3,330	2,859	—
	資産合計	36,314	39,361	41,490	42,671	43,536	—
	流動負債	5,166	6,148	6,603	6,071	6,018	—
	固定負債	2,047	2,061	2,155	2,244	2,252	—
	負債合計	7,213	8,210	8,759	8,316	8,271	—
	株主資本合計	28,288	30,277	31,494	32,832	34,268	—
	評価・換算差額等合計	812	873	1,236	1,522	997	—
	純資産合計	29,100	31,150	32,731	34,354	35,265	—
	負債純資産合計	36,314	39,361	41,490	42,671	43,536	—
連 結 C F	税金等調整前当期純利益	3,113	3,950	3,221	3,406	3,384	—
	減価償却費	1,840	1,599	1,512	1,301	1,129	—
	営業活動によるキャッシュ・フロー	2,715	4,542	2,460	2,972	384	—
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲846	▲473	▲720	▲239	▲258	—
	財務活動によるキャッシュ・フロー	▲3,011	▲781	▲1,002	▲922	▲925	—
	現金及び現金同等物の期末残高	2,846	6,133	6,871	8,681	7,881	—

- 足元の原料市況は、東アフリカの堅調な生育、パキスタンやブラジルといった新興産地の台頭、中国港湾在庫の高止まり等、需給両面での弱材料により一時の高値からは落ち着きつつある。
- アフリカ等の地政学リスクの高い地域からの輸入が多く、安定操業に必要な在庫保有に加え長期契約などの調達を行う。

搾油用原料ごま(Any5)価格推移(通関統計)

2015年4月～2025年3月

USD/MT



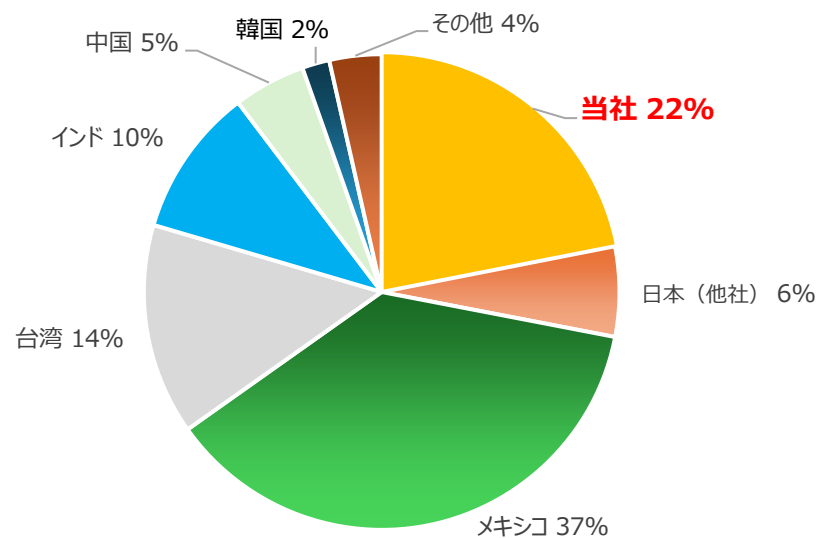
円ドル為替レート推移(月足)

2015年4月～2025年3月

円/USD



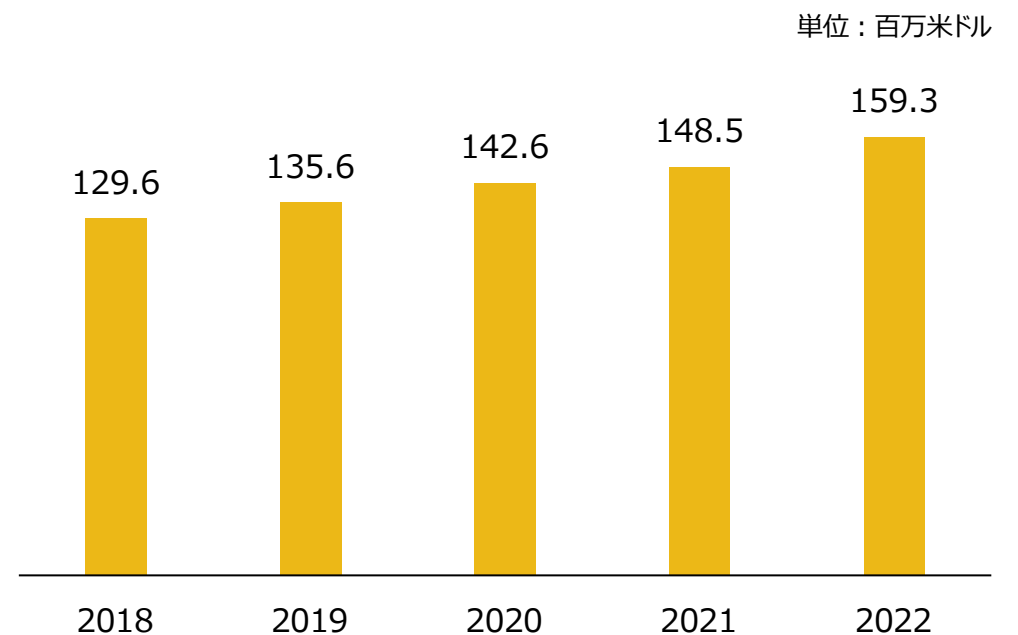
米国ごま油市場全体における当社のシェア＊



出所：Global Trade Atlasをもとに当社作成
(2023年1月～12月分データ)

＊当社が認識する限り米国にはごま油製造メーカーは略存在しておらず、市場は日本・メキシコ・台湾等からの輸入品で構成されております。

米国ごま油市場は拡大傾向



出所：Persistence Market Research

ひらけ、いまの可能性

角 かとや



この資料は、かどや製油株式会社(以下「当社」)が作成したものであり、投資家の皆様に対する情報提供を目的としています。本資料に含まれる情報は、現時点での当社の見解や予測に基づいており、将来の業績を保証するものではありません。市場環境や経済状況の変化により、実際の業績が予測と異なる可能性があります。

本資料に記載されている情報は、信頼できると判断した情報源から得たものですが、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に含まれる情報は、予告なしに変更されることがあります。

投資に関する最終的な判断は、投資家ご自身の責任で行っていただくようお願い申し上げます。当社は、本資料に基づいて行われた投資判断に関して、一切の責任を負いません。